

「明日も来るね」を合い言葉に～陽子線治療を受ける小児への看護支援～

戒谷 明日香

兵庫県立粒子線医療センター附属神戸陽子線センター 看護科

小児がんは稀少疾患であり、治療は集学的治療として専門病院で行われる。治療を受けるにあたっては、多くのこどもが慣れた環境から離れることになる。治療施設では、多職種や他施設と連携しながら、治療効果や有害事象、治療環境など様々な不安を抱える発達途上にあるこどもとその家族が、安心・安全に治療できる支援が必要となる。

当センターでは、隣接したこども病院と連携しながら陽子線治療を受けるこどもや家族が「明日も来るね」という気持ちが継続出来る看護実践を行っている。看護支援の一部を紹介する。

1) 治療の準備

- ・患児の情報共有(集学的治療の位置づけやスケジュール・鎮静の有無・体位保持の想定・入院の有無・病気の説明など)
- ・心身の準備(病気や治療の理解・用語の統一・疼痛コントロール・本人や家族の不安の確認など)
- ・プレパレーションの実施(検査室や治療室の見学体験・がんばりの承認など)
- ・治療の意思決定支援

2) 治療中

- ・治療スケジュールの調整(体調・生活にあわせて多職種と調整、セルフケア支援)
- ・有害事象のケアや説明(症状予測と回復の促進)
- ・治療計画の再現性確保
- ・長い治療期間の中で患児の感情の些細な変化に気付き、成長・発達を見守りながら介入方法を見直す
- ・家族サポート(思いの表出を図る、ケア相談など)

3) 治療後

- ・こどもと家族への理解
- ・こどもが主体となれるような関わり

4) 入院病棟との連携